

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/11/1 ～2017/11/31)

1. 勉学の状況

講義が進んでいくうちに、後悔することが一つ生まれた。それは“英語学習の授業を取る”ということだ。今期はディスカッション形式の授業は履修しておらず、講義形式の授業ばかりなのに加え、なまじドイツ語を習ってしまい、かつものにできるようになるために普段はなるだけドイツ語を使おうと心がけているので、英語を自力で書く能力と話す能力が凄まじく低下していつているのを実感している。それに加え、先生が話す英語も時々ドイツ語の発音混じりなので聞き取りにくい時があり、少し苦戦することもある。自力で英語学習すればいいだけの話かもしれないが、やはり講義という形で習慣として使っていたほうが効率がいいので、来期は英語学習の授業を取ろうと思う。

ここからは各講義で何をしたのかを羅列的に書いていこうと思う。①Labour Economics: 労働需要における所得効果・代替効果、弾力性、労働供給における供給曲線が変化した際の最適な賃金・供給量の決定など ②Institutional Economics: ロビンソン・クルーソー経済、パレート効率、外部性、ピグー税など ③Price and Competition Theory: ナッシュ均衡、サブゲームにおけるナッシュ均衡、クールノー均衡、ベルトラン均衡などを求める問題を解く ④Behavioral Economics: これに関しては正直何をやっているのか全然わからないというのが現状だ。この講義はマスターレベルの授業であり、自分がまだほとんど習っていないレベルの数学的要素を使うので、それらが出てきたらお手上げ状態なのだ。言葉による説明の部分でも難解な単語もしばしば現れるため聞くのも大変であり、あらゆる面で自分のレベルより高いものである。少しでもだけ食らいついていければと思う。⑤German as a foreign language: 定冠詞、不定冠詞、格変化、方向を示す方法、施設の名前、動作を表す動詞など

2. 生活の状況

【日本では馴染みが無いチップの実態】

留学前に自分が気にしていたことの1つはサービスに対するチップだった。ネットで調べてみると、レストランでは料金の10%だとか、飲み屋では何%とか場面によって割合が違ったり、人によっても意見が異なったりとばらつきがあるので、ちゃんと払えるかどうか不安だったのだ。(特に、大きい金額の紙幣しか持ってなかった時、ぼったくられるんじゃないかと疑っていた。)

そして入国してから2ヶ月が経ち、何度かレストランなどのサービスを受けたが、ほぼチップを払うことは無かった。高額紙幣を出してもきちんとお釣りが返ってくるので拍子抜けしたものだ。チューターと“星が背景にある世界的なコーヒーチェーン店”に行った時なんか、お釣りで1セント返ってきたのでチップを集めるボックスに入れたところ、チューターから「チップ払うな

「なんて偉いねえ」なんて言われる有様だった。どうも最近ではチップを払うということ自体がなくなってきたらしく、特に若い人達はほぼ払わないようだ。店員さんもお釣りを全額返してくれる人が大半で、お釣りを返さない店員さんも 10 セント以下でしか取らない。こちらとしても 10 セント以下の小銭はあまり使い道がなく邪魔なだけなので、特に文句を言うこともない。なので、通常のサービスには無いことをしてもらった時だけチップを払えば良いのではないかと私は結論づけた。他国ではどうか知らないが、少なくともドイツでは安心してお金を使っていたきたい。

【デュッセルドルフ周辺の都市】

デュッセルドルフがあるノルトライン・ヴェストファーレン(NRW)州には、ケルン、ドルトムントといった日本でも有名な都市が存在する。学生証についているチケットを使えば NRW 州内の都市近郊列車(S-Bahn)、路面電車(U-Bahn)、バスが乗り放題(*ただし、ICE・IC などの特急列車には別途特急料金が必要)なので、様々な都市に気兼ねせず探訪することができる。今回は上記 2 つを紹介しよう。

・ケルン…デュッセルドルフから普通列車で 50 分、RE(Rhein Express:日本でいう快速電車)なら 30 分程度で行ける。初めて行った時、車内で眠っていた私はケルン中央駅に着くというアナウンスで目を覚ました。眠い目をこすって窓側を見ると、歴史の風格と異様な存在感を放つ大きな聖堂が現れたのである。あんな凄まじい建物は一生忘れないし、何度見ても心動かされてしまうだろう。駅を降りたら早速大聖堂の中へ。日本の神社とは全く種類が異なる荘厳さが空間全体に広がり、パイプオルガンの生演奏が神聖さをより一層引き立てる。一日中本を読んで過ごしたい、そんな場所であった。

そこから少し移動して、ライン川のほとりを散策。冬には寒いですが、季節を選べば散歩するには最適の場所であり、また多くのレストランやクナイペ (Kneipe:ドイツ語で居酒屋のこと)が立ち並んでいて、夕暮れ時なんかは特に賑わっている。ちょうど晩飯時だったので、一軒のレストランに入り、魚のグリルを注文。相席した老夫婦と歓談しながら料理に舌鼓を打ちつつ、眺望を楽しみ、満足のいく時間を過ごせた。一人でも、友人とでも、どちらにも素敵な時間を与えてくれる魅力がケルンにはある。是非一度行ってみたいはかがだろうか。

・ドルトムント…デュッセルドルフから普通列車で 1 時間半、RE なら 1 時間くらいで行ける。駅前にはボルシア・ドルトムントのファンショップやスポーツ体験施設があるが、正直あまり観光するところは見当たらない。デュッセルドルフよりヒドいと断言してもいいと思う。サッカー観戦か練習を見に行くなど以外の目的であまりくる場所では無いな、というのが個人の印象である。特に見るものもないし帰ろうかな、と思ったその時、何やら人だかりがあるのを発見。近づいてみるとすごく大きなイベントが開催されていた。出店のコーヒー屋で一杯注文したついでに何のイベントか聞いたところ“ザンフェマルクト”(Sanfemarkt)という年に一回のイベントらしい。食べ物・飲み物をはじめ、革製品・ブックカバー・アクセサリーなどのグッズもかなり充実して

いた。驚いたのは出店で甲冑の頭部や剣などの武器を売っていたことだ。連邦法や州法がどうなっているのかは詳しくは知らないが、あんなの売って大丈夫なんだろうか。どうか本物で無いことを信じたい。

というわけで、普段は見所は少ないが、イベントを狙って行くとドルトムントはかなり面白い街なのではなかろうか。ザンフェマルクト以外にもイベントはまだまだあるはずなので、今後も調べていこうと思う。NRW 州には、他にも魅力的な街があると人づてに聞いているので、そこに行ったらまた報告していきたい。

【悔るなかれ、ビザ取得】

もしドイツに留学したくて、この報告書を読んでいる人は、ビザの申請はなるべく早くした方がいいことを覚えておこう。IS(Islamic State:イスラム国)による軍事侵攻などの影響でドイツに大量の移民が流入していることはニュースで知っていたが、実際に移民局に行ってみるとそれを実感できる。朝 7 時半に行ったにもかかわらず、長蛇の列を成しているのだ。付き添ってくれたチューターが「5 時半くらいに来なアカンかったかなあ」(*日本人でも、関西弁ユーザーでもありません)と言っていたが、それほど皆ビザを取るのに必死なのだ。

ビザを取得するために必要な書類などは、ドイツ連邦共和国大使館のホームページ(<http://www.japan.diplo.de/Vertretung/japan/ja/02-Service/021-visa/Longterm.html>)

に詳しく記載されているのでそちらを確認してほしい。ここではビザ取得までの簡単な手順を書いておく。①入国後 1~2 週間以内に住民登録局に行つて届出を行い、登録証書を貰う。②入国後 90 日以内にビザの発給を受けられるように外国人局に行き、ビザを発給してもらう。(なんや、たったのツーステップやし、チューターもいるからなんとかビザ取れるんちゃう?) なんて気楽に思っていたのが懐かしい。では、実際の自分はどうだったのかを記していこう。

①入国 1 ヶ月後に住民登録局に行った。仕方なかったのだ、チューターとの都合が合わなかったのだから。かなりドキドキしながら住民登録局に行ったが、特段問題なく登録証書を貰えたのでひとまず安心した。しかし、この1ヶ月という期間が想定外の事態をよぶのだった…。②証書をもって2、3週してから外国人局に行き、最終手続きをする日取りの予約をしたのだが、なんと2 月後半の日付が記されているのだ。他の人に聞いてみると、どうも住民登録を2週間以内にやった人は12月の日付の人がほとんどだった。というわけで、私のビザ習得は3月くらいになると思われる。ビザが無いとドイツ国外へ出られなくなるので、長期休みに他の国に行きたいと考える人は早めに申請しておこう。

次回は【潜入！クリスマスマーケット】、【ドイツの宅配事情】、【暮らすとわかる日本人とドイツ人の気質の違い】について書いていこうかと思えます。